

## ピアノ アドバイザー



### 佐藤 昌代

栃木県栃木市出身。

宇都宮短期大学附属高等学校、同短期大学音楽科卒業、同研究科2年課程修了。

社団法人全日本ピアノ指導者協会 ピティナ新栃木支部支部長。

とちぎ蔵の街ステーション代表。

ブルグミュラーコンクール栃木地区代表。

ピティナピアノコンペティションにおいて特別指導者賞を2度受賞。

ピティナピアノコンペティション全国大会審査員、

バッハコンクール全国大会審査員、ブルグミュラーコンクール東京ファイナル審査員、

栃木県ピアノコンクール、石巻ピアノコンクール等審査員を務める。

栃木市子育て支援活動はじめ、学校コンサートなど地域に根差した音楽活動にも力を入れている。

現在、宇都宮短期大学音楽科・同附属高等学校音楽科講師。

# ホールは楽しい！

## 1. 『初めて』

ホールでの演奏本番となった時皆さんはどのようなことを思いますか？  
いつもと違う大きなホール。楽器も初めてかもしれません。  
何もかも初めての時…頼れるのは自分自身のみです。  
その時自信をもってステージに上がるためにはどのような準備が必要でしょうか。

## 2. 『知る』

まずは演奏する曲について研究すること。  
背景や楽器、文化(絵画、彫刻などの当時の作風など)についても、  
当時の情報を収集しましょう。それらは全て演奏の手がかりになります。  
そして作曲家の生い立ち、人柄など、作曲家自身についても「知る」ことにより曲への想像が広がります。  
様々なことに興味を持ち、調べることで知識を得る。  
それらは私たちをその時代まで <sup>さかのぼ</sup> 遡らせてくれることでしょう。



この4枚は各時代の絵画です。時代と共に題材や作風、色彩感など  
特色に変化が見られます。音楽も、目には見えませんが同様に時代を反  
映した個性を感じる事が出来ます。  
再現芸術といわれる音楽が、様々な情報、知識を得ることにより  
私たちをその時代へと導きます。

### 3. 『聴く』

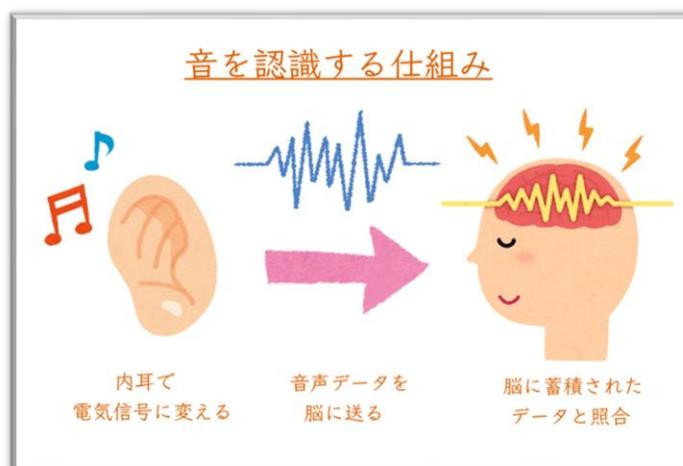
耳だけでは音を認識することが出来ないのはご存じでしょうか？  
音そのものは空気振動です。その空気の振動が私たちの耳に届きます。  
その音は脳に伝達され、伝えられた音が脳内で処理されることにより、言葉や意味のある音として理解することが出来ています。

耳から脳に伝わった音は脳内で常に蓄積され、それまでのデータと照らし合わされ、その動作が繰り返されるほど脳の神経回路はしっかりとしたものになります。

練習の時に「鳴っている」音ではなく「聴く」音が大切です。  
ここまでのお話でお分かりですね。「聴く」ということは能動的に意識的に聴いていることです。

耳に届く音の中から聴きたい音を選び、感じとるのは脳の力です。  
そこには心理的レベルの認識が働くとされています。  
表現したい音楽を求め続けていく上で、「知る」と「聴く」ことは重要なポイントです。  
もちろん演奏技術の習得も必須です。

練習の時から積極的に「聴く」ことを、そしてホールはその空間に響く音が練習の時とは異なります。その瞬間にホールの音を感じとれる感覚も必要になります。ホールに足を踏み入れた時から空間を意識し、反応出来るよう、そして日常生活の中からも空間に対する意識を持ち続けましょう。  
そして自分自身の中にその瞬間生まれてくる想いを、音楽を再現、表現しましょう。



いくつもある準備の中から「知る」と「聴く」の二つのことをお伝えしました。  
日頃の皆さんの準備(練習)の中にも取り入れてみてください。

## 4. 『さあ ステージへ』

あなたが主役です。ホールはあなたを待っています。  
心からの音楽を奏でましょう。

栃木市文化会館大ホールにおいて自主公演  
コンサート「ぴあのれんだん」



栃木市文化会館大ホールにおいて自主公演「2台のぴあのコンサート」

### ——メッセージ——

人々が聞いてくださることは素晴らしいことです。  
自身の思い・想いを伝えられることは素晴らしいことなのです。  
素直に自分をさらけ出すことが、人に与えられた最高の権利であると思います。  
堂々と自信をもってあなたを表現してください。